

III

学部・研究科等による 取組み

III-4 東京キャンパス

東京キャンパス学年暦 247

人文学部 249

学部レビュー

- 1 学生の受け入れ
- 2 教育課程
- 3 学生支援
- 4 進路支援
- 5 研究活動
- 6 社会貢献
- 7 自己点検・評価

2019(平成31)年度 東京キャンパス〔人文学部〕 学年暦

4 月			5 月			6 月		
1	月	1年生オリエンテーションⅠ 学生証登録	1	水	即位の日	1	土	⑦ キャリアガイダンス(3年)
2	火	1年生オリエンテーションⅡ 健康診断	2	木	国民の祝日	2	日	
3	水	1年生オリエンテーションⅢ	3	金	憲法記念日	3	月	⑧
4	木	入学式	4	土	みどりの日	4	火	⑧
5	金	新入生セミナー/花まつり キャリアガイダンス(2・3年)	5	日	こどもの日	5	水	⑧
6	土	新入生セミナー	6	月	④ こどもの日振替休日(通常授業日)	6	木	⑧ 教職員健康診断
7	日		7	火	④	7	金	⑧
8	月	① 前期:講義開始	8	水	④	8	土	体育祭 キャリアガイダンス(2・3年)
9	火	①	9	木	④	9	日	
10	水	① 前期履修登録(Sナビ)締切	10	金	④	10	月	⑨
11	木	①	11	土	④	11	火	⑨
12	金	①	12	日		12	水	⑨
13	土	①	13	月	⑤	13	木	⑨
14	日		14	火	⑤	14	金	⑨
15	月	②	15	水	⑤	15	土	⑧ 教職員特別研修会
16	火	②	16	木	⑤	16	日	第1回オープンキャンパス
17	水	②	17	金	⑤	17	月	⑩
18	木	②	18	土	⑤ 保証人対象説明会(3年生保護者)	18	火	⑩
19	金	②	19	日		19	水	⑩
20	土	② キャリアガイダンス(3年)	20	月	⑥ 高校教員対象説明会(入試)	20	木	⑩
21	日		21	火	⑥	21	金	⑩
22	月	③	22	水	⑥	22	土	⑨ キャリアガイダンス(2・3年)
23	火	③ (創立記念日) 通常授業	23	木	⑥	23	日	
24	水	③	24	金	⑥	24	月	⑪
25	木	③	25	土	⑥	25	火	⑪
26	金	③ 高校教員対象説明会(入試)	26	日		26	水	⑪
27	土	③ 声優・俳優ガイダンス(全学年)	27	月	⑦	27	木	⑪
28	日		28	火	⑦	28	金	⑪
29	月	昭和の日	29	水	⑦	29	土	⑩
30	火	国民の祝日	30	木	⑦	30	日	
			31	金	⑦			
7 月			8 月			9 月		
1	月	⑫	1	木	⑩ 試験・補講	1	日	
2	火	⑫	2	金	⑩ 試験・補講	2	月	
3	水	⑫	3	土	⑩	3	火	追試験
4	木	⑫	4	日	第4回オープンキャンパス	4	水	追試験
5	金	⑫	5	月		5	木	追試験
6	土	⑪	6	火	入試(傘下校集鴨)	6	金	
7	日	第2回オープンキャンパス	7	水		7	土	
8	月	⑬	8	木		8	日	
9	火	⑬	9	金		9	月	① 後期:講義開始
10	水	⑬	10	土	⑩ 試験・補講	10	火	①
11	木	⑬ 盂蘭盆会(2限)	11	日	山の日	11	水	①
12	金	⑬	12	月	山の日振替休日	12	木	①
13	土	⑫	13	火		13	金	①
14	日		14	水		14	土	① キャリアガイダンス(3年)
15	月	⑭ 海の日(通常授業日)	15	木		15	日	入試(9月AO)
16	火	⑭	16	金		16	月	② 敬老の日(通常授業日)
17	水	⑭	17	土		17	火	②
18	木	⑭	18	日		18	水	②
19	金	⑭	19	月		19	木	②
20	土	⑬	20	火		20	金	②
21	日	第3回オープンキャンパス	21	水		21	土	② キャリアガイダンス(3年)
22	月	⑮	22	木		22	日	
23	火	⑮	23	金	成績発表(Sナビ)	23	月	③ 秋分の日(通常授業日)
24	水	⑮	24	土		24	火	③ (前学期卒業式)
25	木	⑮	25	日	第5回オープンキャンパス	25	水	③
26	金	⑮	26	月	後期履修登録(Sナビ)開始	26	木	③
27	土	⑭ 淑徳大学フェア	27	火		27	金	③
28	日		28	水		28	土	③
29	月	⑯ 試験・補講	29	木		29	日	第6回オープンキャンパス
30	火	⑯ 試験・補講	30	金		30	月	④
31	水	⑯ 試験・補講	31	土	後期履修登録(Sナビ)締切			

10 月			11 月			12 月		
1	火	④	1	金	⑧	1	日	
2	水	④	2	土	⑧	2	月	⑫
3	木	④	3	日		3	火	⑫
4	金	④	4	月	⑨	4	水	⑫
5	土	④	5	火	⑧	5	木	⑫
6	日		6	水	⑧	6	金	⑫
7	月	⑤	7	木	⑧	7	土	⑫
8	火	⑤	8	金	⑨	8	日	
9	水	⑤	9	土	⑨	9	月	⑬
10	木	⑤	10	日		10	火	⑬
11	金	⑤	11	月	⑩	11	水	⑬
12	土	⑤	12	火	⑨	12	木	⑬
13	日		13	水	⑨	13	金	⑬
14	月	⑥	14	木	⑨	14	土	⑬
15	火	⑥	15	金	⑩	15	日	
16	水	⑥	16	土	⑩	16	月	⑭
17	木	⑥	17	日		17	火	⑭
18	金	⑥	18	月	⑪	18	水	⑭
19	土	⑥	19	火	⑩	19	木	⑭
20	日		20	水	⑩	20	金	⑭
21	月	⑦	21	木	⑩	21	土	⑭
22	火		22	金		22	日	
23	水		23	土		23	月	
24	木		24	日		24	火	
25	金		25	月		25	水	
26	土		26	火	⑪	26	木	
27	日		27	水	⑪	27	金	
28	月	⑧	28	木	⑪	28	土	
29	火	⑦	29	金	⑪	29	日	
30	水	⑦	30	土	⑪	30	月	
31	木	⑦	31	日		31	火	
1 月			2 月			3 月		
1	水		1	土		1	日	
2	木		2	日		2	月	
3	金		3	月		3	火	
4	土		4	火		4	水	
5	日		5	水		5	木	
6	月		6	木		6	金	
7	火		7	金		7	土	
8	水		8	土		8	日	
9	木		9	日		9	月	
10	金		10	月		10	火	
11	土		11	火		11	水	
12	日		12	水		12	木	
13	月		13	木		13	金	
14	火		14	金		14	土	
15	水		15	土		15	日	
16	木		16	日		16	月	
17	金		17	月		17	火	
18	土		18	火		18	水	
19	日		19	水		19	木	
20	月		20	木		20	金	
21	火		21	金		21	土	
22	水		22	土		22	日	
23	木		23	日		23	月	
24	金		24	月		24	火	
25	土		25	火		25	水	
26	日		26	水		26	木	
27	月		27	木		27	金	
28	火		28	金		28	土	
29	水		29	土		29	日	
30	木					30	月	
31	金					31	火	

2019年度 キャンパス（学部）レビュー

1. 2019年度振り返り

【人文学部】

(1) 学生募集（取組み、成果）

入学定員管理の厳格化を徹底した結果、歴史学科は入学定員60名に対して63名が入学し、表現学科も入学定員85名に対して93名が入学して、目標を達成することができた。

志願者は歴史学科が若干減少、表現学科は増加した。オープンキャンパスの参加者数は前年比増加したが、その要因として、学生アンバサダーによる対応、展示内容の工夫、高校訪問などの振り返りを地道に行った結果が挙げられる。

出前授業に関しては、感染症拡大予防のために止むを得ず実施できないところがあった。

(2) キャリア支援（取組み、成果）

第3期生の就職希望者全員が内定を取得し、就職内定率100%を達成した。キャリアガイダンスやゼミを通じた教職協働体制での就活支援が効果をあげたと言える。

課題としては、次年度以降も高い就職内定率を維持し、学生が目指す分野での就職を増加させるために、教職協働体制を一層緊密化し、学生のキャリア支援講座出席率を高める具体案を検討することなどが考えられる。キャリア支援講座での適性検査受験率は30%にとどまっていることも看過できない課題の1つである。

(3) 正課活動（取組み、成果）

表現学科・歴史学科ともに特色ある授業を展開して、学生の満足度も向上しつつある。授業は講義中心だけでなく、アクティブ・ラーニングなどの双方向性の形態を取り入れて満足度の向上につなげている。

(4) 正課外活動（取組み、成果）

学科ごとのブログ担当の学生が活発に報告しているとおり、両学科共に多くのフィールドワークを実施して、従来の座学中心の授業だけでなく、学外の施設で教員と学生が活動を行い、色々な経験を積むことを可能にしている。このことが表現学・歴史学に対する学生の興味、関心の増大をもたらしている。

【東京キャンパス】

アンケート結果から、設備の面での学生の不満がうかがえていたが、校舎の増築が完了し、食堂や教室の広さ、スタジオの使いやすさに対する満足度の向上が期待される。

2. 次年度への課題、方策

前年同様、入学定員管理の厳格化に努めた結果、両学科共に入学者数は目標としていた数値に収めることができた。

次年度も、引き続き厳格な定員管理を行うと共に、より一層志願者が増加するようにオープンキャンパスの内容、高校訪問、出前授業に検討を加える。

歴史学科では主として教職、学芸員関連、表現学科では学科での学びを生かした就職先の内容が成果をあげつつあるが、次年度も教職協働のもと、就職説明会やキャリア支援講座の内容に検討を加えて、講座への出席を促し、就職支援をさらに強化してゆく。

以上

1 学生の受け入れ

関連委員会	募集・入試委員会
関連部署	アドミッションセンター東京オフィス
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

オープンキャンパスの参加人数は前年度を上回ったが、次年度も増加させるために、参加者のニーズに対応できるようなプログラムを構築し、来場者の満足度を高める。

志願数の大幅な伸びに伴い志願倍率が高くなったため、次年度は隔年減少が予想されるが、歴史学科、表現学科ともに入学定員管理を厳格に行いながら定員を充足させる。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

募集・入試委員会所属の教員と大学アドミッションセンター東京アドミッションオフィス職員が一丸となって、目標に掲げた数値などを実現させる。

教職員が一つにならなくては、募集活動・入試活動の実現は不可能なので、万全の協力体制を構築していく。

(2) 目標

- ① 出前授業の回数を前年度より増加させる。
- ② オープン・キャンパスの参加人数を前年度より増加させる。
- ③ 歴史学科、表現学科ともに入学定員管理を厳格化し、入学定員を確保する。

2 具体的計画

PLAN

- ① 出前授業の回数を前年度より増加させるために、業者との関係を緊密にする。
- ② オープンキャンパスの参加人数を前年度より増加させるために、学科別の興味あるイベント・模擬授業を計画する。
- ③ 合否判定を慎重に行い、入学者数管理を徹底する。

3 取組状況

DO

- ① 前年度の9回を上回る回数を予定して順調に進んでいたが、新型コロナウイルスの影響で高校側からキャンセルが相次ぎ、結果として7回だった。
- ② オープンキャンパスの参加人数は、受験生：1081名、前年度は、959名、保護者：493名、前年度は、444名。前年度比では、受験生は、113%、保護者は、111%と大幅に増加した。在学生がアンバサダーとして来場者に対応したり、「歴女カフェ」を企画したことも増加の要因である。
- ③ 歴史学科の志願者数は516名で前年度の650名より減少した。表現学科の志願者数は603名で前年度489名より増加した。入学定員の確保については両学科ともに入学定員を確保した。

4 点検・評価

CHECK

- ① 次年度も積極的に参加ができるよう教職協同で進めていきたい。
- ② オープンキャンパス参加者のニーズに対応できるような更なるプログラム、展示スペースを企画し、教職員はもとより学生スタッフとも協力しつつ、来場者の増加、満足度を高め、出願につなげる。
- ③ 合否判定を慎重に行った結果、入学定員を確保することができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

当初に掲げた3つの目標のうち、「出前授業」については達成がかなわなかったが、やむを得ない事情によるものであった。

他の2つの目標については、ほぼ想定どおりに到達することができた。今年度以上の成果が達成できるように、次年度も更に教職協同で進めてゆく所存である。

以上

2 教育課程①〔歴史学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

アクティブラーニングの手法に関しては、個々の教員は個別に工夫・努力を重ねている。今後はそれを、学科全体の共有知として活かす方法を模索していく必要がある。ルーブリックは、多くの教員が積極的に取り組んでおり、今後もこの流れを継続・加速させていく。地域連携のプログラムのいくつかは、軌道に乗ってきているが、さらに学生が主体的に関わっていくプラットフォームづくりが求められる。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学修に関わる学生の理解度の客観的評価のため、現状の評価方法の見直しを進め、問題点を探り、新しい評価方法を開発する。
- (2) 授業運営の方法の見直しを進め、その具体的な改善を図る。履修体系図に則った教科間のつながりを、授業運営に取り入れる。
- (3) **成果指標** 地域連携のさらなる向上をめざし、学外授業プログラムについて地域と密接に連携した新規プログラムの構築を図る。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 開発したルーブリックの効果を検証・評価した上で、そのブラッシュアップを図る。また歴史学科に特化したルーブリックの開発（1つ以上）を進める。
- (2) アクティブラーニングの手法や授業内での効果を検証・評価して、情報共有を図る。またステップアップ学習を意識した、授業科目間での教授法の有機的な繋がりを模索する。
- (3) 授業内の地域連携を視野に入れ、既存のプログラムを発展させるための見直しや、新しいプログラム開発の可能性を探る。

3 取組状況

DO

- (1) 歴史学科の卒業論文審査用のルーブリックを開発した。今年度の卒業論文から使用し、学生との口頭試問の際に活用した。
- (2) 学科内でFDを継続して開催し、基礎教科科目の繋がりとその教授法を抜本的に見直し、教員・科目を越えて授業内容を再構築した。複数の科目で教育内容の要点に焦点化した、オムニバス形式の授業に再編した。
- (3) 客員教授の講演会は、地域連携の一環として広報にて開催を周知したが、残念ながら参加者はなかった。
授業における地域連携プログラムは着実に成果をあげている。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 歴史学科では、今回から卒業論文審査用のルーブリックを開発し、使用を開始した。口頭試問を通じて、客観的な指標による評価を行うことができた。また副査の評価も的確に伝達できるようになったと評価できる。
- (2) 学科内FDにより、教員間の情報共有を図り、教科間の繋がりを確認した上で授業内容を再検討した。その結果を受け、基礎科目にオムニバス形式の授業を導入するなど、次年度へむけた成果をあげることができた。

(3)地域連携は、講演会の告知などに工夫の余地が見られる。授業科目における地域連携は、着実に成果をあげ、連携を深めつつあると評価できる。

5 次年度に向けた課題

ACTION

卒業論文用の統一ループリックは、今回から導入した。今後その有効性を検証していく必要がある。また評価の厳格化に関して、ループリック以外でもシャトルカードやチェックシートなど、様々な評価シートの必要性を検討していく必要がある。

今年度は、基礎教育科目の見直しを行った。次年度はその有効性を検証し、さらに改善を進めて、より良い授業内容の実現を目指すことが求められる。

地域連携プログラムについて、授業科目の連携はある程度円滑に行えるようになった。今後は、新しい連携事業を模索していきたい。

以上

2 教育課程②〔表現学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

学位に応じた学習成果を測定するための取り組みを充実させること、特に、卒業研究の評価法が今後の課題であろう。

カリキュラムについても、再編成を確実に準備・検討しなければならない。

また、積極的に自治体・企業などとのPBLを取り入れるだけでなく、さらに発展させ、学生、そして、教員のより深い学びにつなげられる仕組みを構築していくことも必要である。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1)カリキュラム再編成を着実に準備、検討する。
- (2)学位に応じた学習成果を測定するための取り組みを充実させる。特に、卒業研究の評価法を厳格化させる。
- (3)社会人に必要な基礎力（提出期限を守る・ルールや規則を守る・スマホ使用のTPOなど）を身につけられるよう学科として取り組み指導していく。
- (4)学生一人ひとりが満足できる就職活動・就職ができるよう支援していく。
- (5)本学科の教育手法として定着してきた自治体・企業などと組んでのPBLやアクティブラーニングをさらに発展させ、学生自身の学びとして定着させる。

2 具体的計画

PLAN

- (1)現在のカリキュラムの問題点など感じていることを全教員が提出し、今後の検討に活かしていく。
- (2)継続して全専任教員が卒業研究ルーブリックを使用する。また、評価の厳格化・公正化を徹底する。
- (3)現状把握・問題点を学科で共有する。
- (4)キャリア支援室と連携し、学生一人ひとりが満足できる就職活動・就職ができるようクラス・ゼミの枠を越えて、全教員で支援する。
- (5)地域連携センターと連携し、積極的にPBLなどの依頼を受け入れる。

3 取組状況

DO

- (1)2019年度になってから、カリキュラム再編成の見通しがいいことがわかった。そこで、9月には、現在のカリキュラムの問題点などを全教員が提出し、今後の検討に活かしていくことにするなど、現在可能なことはしている。
- (2)専任教員の多くは、授業にルーブリックを導入している。また、卒業研究ルーブリックを全教員が活用し、指導している。今年度の問題点をもとに、次年度の卒業研究の評価法を厳格化するための議論を重ねている。
- (3)学生の情報共有を毎月の学科会で行ない、現状把握・問題点を学科で共有した。また、非常勤の先生からのご意見にも、迅速に対応している。
- (4)キャリア支援室と連携し、学生一人ひとりが満足できる就職活動・就職ができるようクラス・ゼミの枠を越えて、全教員で支援している。毎月学科会にて情報共有している。学科独自の業界研究セミナーやインターンシップなども紹介している。
- (5)地域連携センターと連携し、積極的にPBLなどの依頼を受け入れ、学科で情報共有している。

- (1) 基盤教育など大学全体の流れとは別に、学科として、現在のカリキュラムの問題点を明らかにしてきた。
- (2) ルーブリックの活用の継続をしてきた。また、卒業研究のルーブリックを見直しするなど、厳格化に向けて検討している。
- (3) 学科で共有している問題点の改善方法を検討し指導してきた。また、非常勤の先生からの意見などにも迅速に対応した。
- (4) 情報を共有し、さらに支援を求め合うことで、指導に活かしてきた。
- (5) 地域連携センターと連携し、積極的にPBLなどの依頼を受け入れ、学科で情報共有している。アクティブラーニングの手法を学科内で共有し、学び合える仕組みを構築している。また、依頼を受けたものに対しては、100%成果をあげている。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 基盤教育など大学全体の流れとは別に、学科として今後も議論を続け、カリキュラム再編成が可能な時がきたら、理想的な案を提出できるよう備えておく。
- (2) ルーブリックの活用の継続。見直した卒業研究のルーブリックで、より厳格化された評価法を実現するために、運用面などを継続して検討していく。
- (3) 学科で共有している問題点の改善方法を検討し、指導を実践していく。
- (4) 継続し、情報を共有し、さらに支援を求め合い指導していく。
- (5) PBLなどの依頼を受け入れる際、いかに進めればより「学生の学びの場」になるかを検討し、実施するようにしていく。

以上

3 学生支援

関連委員会	教学委員会・ハラスメント防止委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

学生がより良い環境で教育が受けられるよう、教務に関する事項について、計画的・効果的に実施していく必要がある。また、学生が充実した学生生活が送れるよう、学生厚生への支援についてもさらに検討していかなければならない。

学生が学業上・生活上で問題が生じた場合は、他の委員会・他部署と連携し、保護者とも連絡を取りながらの支援が求められよう。

研修会はキャンパス別に個別の内容で実施しているが、次年度は大学ハラスメント防止委員会での協議を経て内容の統一化を検討する。ハラスメント相談リーフレットの内容に修正する必要がある見直しを行う。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 履修・試験・成績・教育的指導など教務に関わる事項を遅滞なく実施することを継続し確実にしていく。
- (2) 正課外プログラムの受け皿となるような課外活動、学術系のサークル活動などを奨励する仕組みを議論し、構築する。
- (3) 成績不良者や欠席が多い学生に対し、より良い指導ができるよう努めていく。
- (4) 学生がより体系的に深い学びが可能になるようカリキュラム再編をふまえた科目間連携を学科へ推奨する。
- (5) 入学から卒業まで一人ひとりに合わせた支援を通して快適で安全なキャンパスライフを提供する。
- (6) 淑徳大学ハラスメント防止規程に基づいて、東京キャンパスでのハラスメントを防止し、ハラスメントのない・起きない快適な教育・職場環境を保証するための適切な活動を行う。
- (7) **成果指標** (1) 教職員のハラスメント防止への意識を高め、ハラスメントを未然に防ぐために研修会を開催し、全員の出席を促す。
成果指標 (2) 学生のハラスメント防止に関する理解を深めるための啓蒙活動を行う。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 平成30年度に改められた教学委員会の進め方・議事録作成などを確実に継続する。
- (2) 今年度中に奨励する仕組みの議論まで進められるよう、まず、実態の把握に努めることから始めていく。
- (3) アドバイザーマニュアルを作成し、充実した学生指導・支援を目指す。成績不良や欠席が多い学生に対する面談日を学部全体で統一し設定する。
- (4) カリキュラム再編をふまえた科目間連携を学科へ推奨する。
- (5) 教員のオフィスアワーに対する認識を深める。アドバイザーの役割を明確にする。配慮希望学生以外でも個別に支援が必要な学生への支援体制を確立する。
- (6) ハラスメント防止研修会を前期、後期1回ずつ、合計年2回開催する。
- (7) ハラスメント防止に関するリーフレットを作成して教職員、学生全員に配布し、ゼミやクラスアワー等の時間を使って学生のハラスメント防止に対する意識を高める。

3 取組状況

DO

- (1) 平成30年度に改められた教学委員会の進め方・議事録作成などを確実に続けてきている。
- (2) 前学期には、課外活動、学術系のサークル活動などの実態を把握するために、各種サークルに対しては活動月報の作成を求めた。また、淑徳祭やボランティア活動等への案内をすることにより、サークル活動を奨励するよう努めた。
- (3) 今年度より、成績不良や欠席が多い学生に対する面談日を学部全体で統一し設定した。また、授業アンケートの結果に基づく担当教員への対応や、支援が必要な学生への対応など、必要に応じて他の委員会や関連部署と協議し、共同で対応している。なお、充実した学生指導・支援を目指し、アドバイザーマニュアルを作成した。
- (4) 大学教務委員会にて学長諮問事項に基づき、現在各学科において履修体系図・履修モデルの見直しを行った。(現状のところ、カリキュラム再編の見直しはない。)
- (5) オフィスアワーの定義も盛り込んだアドバイザーマニュアルを作成した。多様化する学生一人ひとりの情報をまず口頭で伝え合う「場」を定期的に設けた。また、支援に必要な知識やスキルを得るために、FD・SD研修などを教育向上委員会と協力して開催した。
- (6) ハラスメント防止研修会を前期7月、後期2月、合計年2回開催した。
- (7) ハラスメント相談リーフレットを、ゼミ、クラスアワー等を通じて全学生に配布した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 平成30年度に改められた教学委員会の進め方・議事録作成などを確実に続けてきている。
- (2) 課外活動、学術系のサークル活動などの実態把握に務めた。また、その中で見えてきた問題点も一つひとつ解決してきた。しかし、特筆すべき奨励する仕組みの構築にまでは至っていない。
- (3) 今年度より、成績不良や欠席が多い学生に対する面談日を学部全体で統一し設定することにより、担当教員と委員会、ならびに関係者が連携しやすくなった。また、授業アンケートの結果に基づく担当教員への対応や、支援が必要な学生への対応など、必要に応じて、他の委員会や関連部署と協議し、共同で対応している。アドバイザーマニュアルも完成した。
- (4) 大学教務委員会にて学長諮問事項に基づき、各学科において履修体系図・履修モデルの見直しを行った。(現状のところ、カリキュラム再編の見直しはない。)
3月の全教員会では、科目間連携を進めやすくするための分科会を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で開催中止となってしまったため、継続して次年度以降の課題としたい。
- (5) アドバイザーマニュアルが完成し、アドバイザーの役割を明確化することにより、オフィスアワーがより有効活用されることが期待できる。教授会終了後、学生の情報を各部署長と教員により、口頭で報告し合う機会を持った。また、修学支援に必要な知識やスキルを得るために、FD・SD研修を教育向上委員会と協力して開催した。
- (6) ハラスメント防止研修会を予定通り2回開催し、当日欠席者は映像資料を見ることで全員が研修に参加した。
- (7) ハラスメント相談リーフレットを配布し、学生へのハラスメント防止への意識を高めることができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 次年度も学生がより良い環境で教育が受けられるよう、教務に関する事項・学生厚生への支援について、計画的・効果的に実施することを継続していく。そのためには、他の委員会・他部署との連携がますます必要となるであろう。
- (2) ハラスメント防止研修会は、計画通り、前期後期一回ずつ開催した。ハラスメント防止に関する連絡会議での協議事項を参考に、研修会の内容を充実させてゆく。
- (3) ハラスメント相談リーフレットの内容に修正する必要がある場合は見直しを行う。

以上

4 進路支援

関連委員会	キャリア支援委員会・教学委員会・教職課程運営委員会
関連部署	キャリア支援室・学生支援部
関連データ	①2019年度人文学部教育・研究・管理運営等に関する目標・成果指標 ②2019年度人文学部教育・委員会活動計画書及び活動報告書

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

(1) キャリア支援

本学人文学部のキャリア支援については、限られた予算と人員の中で工夫を重ねてカリキュラムを充実させている。

問題はこの事実が学生及び保証人に対して、あまり伝わっていない点である。この点がキャリア支援講座における適性受検率の伸び悩みにつながっていると思われる。一方で、卒業生の保証人からは「大学は何もしてくれなかった」といった不満の声も委員長の耳に入ってくる。

このような事態を改善するためには、学生及び保証人に対して、「自らの手で進路を選択しなければならないという主体性を身につけることが必要である」という働きかけをすること、キャリア支援の実際についてより詳細かつ具体的な情報発信を行うことができるような方策を考えることが必要とされよう。

また、表現学科の専門職の情報提供については折角、その場を設定したにも関わらず参加する学生が少ないという現実がある。この問題に対処するために、情報提供のタイミングや内容について、さらに見直しをはかる必要がある。

(2) 免許取得支援

2018年度の教育実習にあたり、実習開始直前で単位不足により実習を辞退する学生が発生し、その対応に追われることになった。

次年度以降は、教職課程履修者全体への呼びかけとともに、個別的な面談を重ねることによって、介護等体験や教育実習に臨むにあたっての心構えを十分に認識させる必要がある。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

ア キャリア支援

成果指標

(ア) 学生が主体的に自分自身の手で進路選択できるように支援を行う。

(イ) 保証人との連携を図るために保証人に対する情報発信に努めていく。

(ウ) 卒業生の職場環境をリサーチし必要に応じて適切な指導を行う。

(エ) 学生の強みと弱みを把握し、学生自身にもそれを認識させながら、強みを伸ばし弱みに対する底上げを行う。

(オ) インターンシップの機会と可能性を拡大する。

(カ) 学生が進学時に希望していた職業及び学科で学んだことが活かせる職業について多くの情報を提供し、学生自身が多様な選択をできるようにする。

イ 免許取得支援

(ア) 公立・私立の中学・高等学校教員希望者について十分なサポート体制を構築する。

(イ) 介護等体験、教育実習について十分な知識を修得させるとともに、実習に臨む姿勢を涵養する。

(ウ) 各自治体の教育委員会や学園傘下校などとの連携を密にし、教職課程履修者の学びの向上に資するサポートを行う。

(2) 目標

ア キャリア支援

成果指標

- (ア) 令和元年度卒業生について就職希望者の就職率95%以上を達成する。
- (イ) 令和元年度卒業生について進路決定率100%を達成する。
- (ウ) 令和元年度3年次生に対するキャリアカウンセラーによる面談の実施率100%を達成する。
- (エ) インターンシップ説明会を2回以上開催する。
- (オ) 学内合同業界研究会参加率50%以上、学生の個別支援に対応できる新たなセミナーを年に1回以上開催する。

イ 免許取得支援

- (ア) 中学校・高等学校教員の採用者を複数輩出する。
- (イ) 介護等体験・教育実習の実施前に合同説明会などの事前指導を行う。
- (ウ) 教職課程での学びに関して、各自治体の教育委員会及び学園傘下校教員との共同プロジェクトを行う。

2 具体的計画

PLAN

(1) キャリア支援

成果指標

- ア 4年次生については、4月末の段階までにゼミ担当教員を通じて必ずキャリア支援室に行かせ、キャリアカウンセラーと面談するように指導する。
- イ 3年次生に対する保証人説明会を12月から5月に変更し、早い段階での情報発信に努める。
- ウ 7月末までに前年度就職決定者に対するアンケート送付を実施する。
- エ 3年次生については、7月末の段階までに必ずキャリア支援室へ行かせ、キャリアカウンセラーと面談するように指導する。
- オ インターンシップ説明会を6月末までに2回以上実施する。
- カ プレ就活、学内合同業界研究会の重要性について3年次生の前学期の段階で周知し、実施2ヶ月前より告知の上、申し込み人数をゼミごとにカウントし、ゼミ担当教員に周知を促す。
- キ 11月に卒業生カフェを開催し、卒業生と在学生との接点を作る。
- ク 障がいを持つ学生への支援として、12月にガイダンスを実施する。

(2) 免許取得支援

- ア 特に長期休業期間中における各種講座についてキャリア支援室と連携しながらこれを実施する。
- イ 介護等体験については「介護等体験報告会」「認知症サポーター養成講座」「介護等体験事前ガイダンス」を実施する。
- ウ 教育実習に関しては、専任教員による巡回指導を行う。また、「教育実習事前事後指導」(教職科目)において十分な事前指導を行うと共に、事後指導の集大成として「教育実習報告会」を開催する。

3 取組状況

DO

(1) キャリア支援

成果指標

- ア 4年次生の面談は4月末までに実施した。
- イ 前学期中にすべての3年次生とゼミ担当教員による面談を実施した。
- ウ 3年次生の保護者対象説明会もスケジュール通りに5月末までの段階で実施した。それ自体は効果を挙げたが、保護者対象説明会の後、同じ日に協賛会の総会などもあり教職員の配置や運営面においていくつかの課題を残した。
- エ 3年次生については、7月末までに自分自身のエントリーシートを持参させてキャリアカウンセラーと面談させた。
- オ 当初の計画通り、インターンシップ説明会を6月末までの段階で2回開催し、学生の夏のインターンシップへの参加を促した。

- カ 8月に教職対策講座を実施した。
- キ 合同企業研究会の案内を12月のガイダンスで2回行った。年明けにも複数回告知している。
- ク 卒業生カフェも11月の淑徳祭期間中に実施できた。
- ケ 12月に計画どおり、コミュニケーションの苦手な学生と保護者を対象とするガイダンスを実施し、多くの参加者を得た。
- コ その他、進路希望別の各種ガイダンスを企画実施した。学生のニーズにあった情報提供を行った。たとえば、放送業界で今年度内定を確保した企業の人事担当者を招請し、業界の実情について表現学科の学生に周知した。
- サ プレ就活、学内合同業界研究会の重要性について3年次生の前学期の段階で周知し、実施2ヶ月前より告知の上、申し込み人数をゼミごとにカウントし、担当教員に周知を促した。

(2) 免許取得支援

- ア 教職への就職希望者に試験対策のための学習指導や情報提供を行った。
- イ 介護等体験ならびに教育実習に関する説明会、事前指導を滞りなく実施できた。
- ウ 歴史学科へ複数名の進学者を送り込んでいる私立高等学校から地理歴史科の教員を招聘し、教育実習報告会を開催した。

4 点検・評価

CHECK

(1) キャリア支援

成果指標

- ア 令和元年度卒業生については、就職希望者における就職率100パーセントを達成した。
- イ 令和元年度卒業生については、進路決定率100パーセントを達成した。
- ウ 8月に実施した教職対策講座については受講率60%を超えた。応用講座は2名の参加にとどまった。
- エ 適性検査受検率は、30%にとどまった。
- オ 3年次生のキャリアカウンセラーとの面談実施率は100%を達成できた。
- カ インターンシップ説明会を2回開催できた。
- キ プレ就活、学内合同業界研究会、卒業生カフェ、コミュニケーションの苦手な学生へのセミナー等も当初の計画どおりに実施できた。

(2) 免許取得支援

- ア 教職課程履修者について教員希望者7名のうち、5名の教員採用者を輩出することができた。
- イ 介護等体験実習、教育実習事前指導を滞りなく実施できた。
- ウ 本学に入学した学生の出身高校との連携はできたが、その中に学園傘下校は含まれてはいない。

5 次年度に向けた課題

ACTION

(1) キャリア支援

個々の学生のキャリアデザインに対する意識を向上させるための環境作りに努める必要がある。適性受検率が当初の目標数値を大きく下回った点を直視し、学生に対してただ単にキャリア支援講座への出席を求めるだけでなく、学生自身が意欲的に取り組むことができるようなコンテンツの組み立てを行う必要がある。

(2) 免許取得支援

免許取得に関わる教職課程運営委員会とキャリア支援委員会との一層の連携が必要である。その上で、教職課程の受講学生から教職につくことを希望する学生を増やしていこうとする努力が求められる。

(3) まとめ

教員、マスコミ関係の職種、声優などの職業のハードルが高いことは事実であるが、教育やマスコミ、声優の世界がどのようなものなのか、その実態について具体的に情報発信を行うことで、学生自身に業界研究を行わせ、納得のいく形での進路選択ができるように導くことが内定率や定着率の向上につながる。

以上

5 研究活動

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	総務部・教育研究支援センター
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

当初の目標であった年2本以上の学術論文等の執筆をすべての専任教員が達成するためには、研究論文発表の予定、進捗状況の確認を学科ごとに定期的に行うこともその一助となろう。科学研究費については、新たな申請を促し採択件数増を目指す。個人研究費の傾斜配賦については未申請の教員もいるため、申請を促す方策を検討する。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 教員の研究活動を促す。
- (2) 専任教員は、年2本以上の学術論文等を執筆し、研究実績を積み重ねていく。
単著のない教員は、早い時期に単著を公刊する。また、専任教員は全員、科学研究費を申請する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 「人文学部 研究論集」、学会誌、学術雑誌等に論文等を投稿するように促す。
- (2) 学科長が科学研究費申請を促す。

3 取組状況

DO

- (1) 年2本以上の学術論文等の執筆目標は概ね達成することができた。「人文学部 研究論集」には、論文8点、研究ノート4点、実践報告と資料目録各1点が掲載され、うち11点が専任教員によるものであった。
- (2) 科学研究費は8件申請された。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 年2本以上の学術論文等の執筆目標をすべての専任教員が達成することはできなかった。
- (2) 科学研究費は8件申請があり、採択は3件で成果を上げている。

5 次年度に向けた課題

ACTION

目標としていた年2本以上の学術論文等の執筆をすべての専任教員が達成するためには、年次当初、学科ごとに研究論文等の発表の予定を確認し、定期的に進捗状況の確認を行うことも考えられる。

科学研究費については、引き続き新たな申請を促し採択件数増を目指す。
個人研究費の傾斜配賦については未申請の教員もいるため、積極的に申請を促す。

以上

6 社会貢献

関連委員会	教学委員会、教職運営委員会、ボランティアセンター運営委員会、地域連携センター運営委員会
関連部署	学生支援部、地域支援ボランティアセンター東京、大学地域支援ボランティアセンター
関連データ	2019年度淑徳大学大学地域支援ボランティアセンター活動報告書 淑徳大学ボランティアニュース vol.62 大学地域連携センター年報 第4号

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

地域と連携した新たなプログラムを開発するとともに、社会貢献活動の継続性を視野に入れた体制整備についても検討が必要である。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 包括提携協定を結んでいる自治体との間で、社会貢献活動の継続性を視野に入れた教育・研究の取り組みを推進する。
- (2) 地域や企業と連携した社会貢献活動に、各教員が積極的に取り組む。
- (3) ボランティアセンターから学生への情報提供や活動支援をはかり、学生の主体的な社会貢献活動を促す。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 包括連携協定を結んでいる自治体と継続的に連携事業を実施する。
- (2) 専任教員は年間に1件ほどの地域連携、産学連携を計画し実行する。
- (3) 学生に対してボランティア活動の情報提供と活動支援を行う。

3 取組状況

DO

- (1) 包括連携協定を結んでいる自治体（板橋区、八潮市）との連携事業
 - ア 学習支援ボランティア（板橋区教育委員会：登録29名、実施11名）
 - イ 認知症サポーター養成講座（板橋区おとしより保健福祉センター：22名）
 - ウ 八潮こども夢大学（八潮市：29名）
 - エ 板橋区公開講座（表現学科専任教員6名が講師）
 - オ 板橋区MOTENASHIプロジェクト（他大学の学生との協働PBL：1名）
- (2) 専任教員による地域連携・産学連携事業（正課科目、正課外活動、ゼミ）
 - ア 歴史学科 「歴史調査実習Ⅰ」板橋区立郷土資料館と連携した実習
 - イ 歴史学科 「日本地域史」で板橋区公文書館での調査研究
 - ウ 歴史学科 「教職概論」板橋区役所・都市農業係と連携した農業体験
 - エ 表現学科 ゼミにて志村警察署と連携した企画・制作
 - オ 表現学科 ゼミにて板橋区立美術館のイタリア・ボローニャ国際絵本原画展とシンポジウム見学し絵本ミニセミナーを開催
 - カ 表現学科 ゼミにて板橋区文化・国際交流財団のイベントにスタッフ参加
 - キ 表現学科 ゼミにて板橋区の劇団銅鑼の公演活動にスタッフ参加
 - ク 表現学科 飲料メーカーおよび地域スーパーと協働した広告プラン案作成と大学祭でのPRブース設営（キリンビバレッジ(株)、オオゼキときわ台店）
 - ケ 表現学科 ゼミにて富士見市公共施設マネジメント啓発漫画作成事業に参加
- (3) ボランティアセンターを介したボランティア活動の促進と支援
 - ア ボランティアセンターでの情報提供
ボランティア説明会を夏休み前に開催する等、学生のボランティア活動を啓蒙。

ボランティアセンターの利用者数は211名（年間延べ：前年14%増）に増加。

イ ボランティア活動助成

2018年度から活動助成制度を新設し、ボランティア活動における必要経費の助成を開始している。2019年度は台風19号で浸水被害に見舞われた長野県のボランティアツアー企画に助成され、歴史学科の学生8名が長野市立博物館の管理する文化財保全の活動に参加した。

ウ 広報誌「ボランティアニュース」の編集・刊行

表現学科の学生3名が取材、執筆、編集作業を担当。ボランティアに積極的な学生の座談会企画では、学生視点で参加動機や活動を通じた学びを紹介した。

4 点検・評価

CHECK

開設から6年目を迎えた人文学部は、学科の特徴や専門性を活かした社会貢献活動が充実してきたと評価できる。この背景には、東京キャンパスの短期大学部が長年の共生体験活動で蓄積したボランティア・コーディネートの知見をもっていることと、連携先開拓や社会貢献活動に尽力した教職員の存在が大きいものと考えられる。

5 次年度に向けた課題

ACTION

教職員の入れ替わりもあり、今後は社会貢献活動をいかに継続的・組織的に進化させていくかが問われる。他キャンパスとの連携や取り組み内容を共有するなど、大学組織内での知見共有をこれまで以上に進めていくことが必要である。

以上

7 自己点検・評価

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	総務部、教育研究支援センター
関連データ	

2018年度大学年報

【次年度に向けた課題】

大学として「適合」評価を得た認証評価に対して、学部、学科として今後も改善してゆくべき事項の点検・評価を着実にを行い、大学自己点検・評価委員会からの指示に迅速に対応する。

1 2019年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 各委員会の自己点検・評価に関する事項の確認を行う。また、教員の研究活動や社会的貢献を促す。
- (2) 学科、委員会の活動をPDCAサイクルの視点で定期的に点検・評価する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 認証評価「適合」に向けて包括的な自己点検・評価を行う。
- (2) 学科、各委員会の活動計画、中間報告、活動報告を年3回にわたり確認する。

3 取組状況

DO

- (1) 受審結果に基づく改善工程表に従い、「提言」に対する取り組みを進めた。
- (2) 学科、各委員会の活動計画書を確認して教授会で報告を行い、計画通り進めた。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 大学自己点検評価委員会からの指示に迅速に対応する。
- (2) 今年度同様、活動計画、中間報告、活動報告を委員会で確認する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学科・委員会の活動計画、中間振り返り、活動報告の確認については、計画どおりに実行できた。委員長の代わる委員会の活動計画については、新旧両委員長による検討、引継ぎを依頼する。

以上